

第4回 第5分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年8月8日（月） 午後7時00分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 片谷、渡辺
		責任者	区事務局（松浦、池田）
<p>会議出席者：29名 傍聴者0名 （区民委員：23名 学識委員：2名 区職員：4名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 第3回会議録</p> <p>② 参考資料(2部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本経済新聞コラム『経済教室』2005年8月2日付～8月5日付分 ・日本経済新聞コラム『素顔の東京』1～7回分 <p>③ 第2回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ</p> <p>④ 第5分科会参考書籍の紹介</p> <p>⑤ 新宿区の染色業（パンフレット）</p> <p>■進行内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（事務連絡） 2. 次回以降の日程について 3. 区民委員による話し 「文化」・「商店街」・「地場産業」（各テーマ15分程度） 4. 意見交換 5. まとめ <p>■ 会議内容 （区民委員：● 学識委員：◎ 区職員：○）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（事務連絡） <p>○：配布資料の確認（5点） 本日の進め方について 提案ですが、本日の司会進行1名と記録係3名を皆さんの中から、後ほど決めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>○：次回第5回分科会（8月26日）会場のお知らせ 次回の会場は、新宿区役所 第二分庁舎（旧四谷第五小）に変わります。19時を過ぎると明治通り側からのみの入場となり、もう一方の側は警備の関係上閉鎖しますので、ご注意下さい。</p> <p>○：第2回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ ・8月16日（火）18：00～21：00</p>			

早稲田大学大久保キャンパス 理工学部57号館201教室

◎：メーリングリストについて

現在10名の登録がありますので、今週から活動を始めます。今後、参加したい方も登録をして下さい。セキュリティは個人の責任でお願いします。ヤフー等のフリーメールでも登録できます。あくまでもサブツールとして活用していきます。例えば、このような勉強会がある、他の分科会ではこんな事をしている等、分科会で話しきれなかった事等を、紹介していきたいと思います。また、重要な話は随時分科会で報告して、情報を共有化していきたいと思います。メーリングリストは、どなたでも閲覧できますが、登録者以外は書き込みができませんので、もし、書き込みを希望される場合は、連絡して下さい。また、区事務局のアドレスをお知らせしてありますので、ご不明な点はそちらまでお願いします。まずは、学識委員2名、区職員を含めた15人程度でスタートしたいと思います。

2. 次回以降（9・10月）の日程について

○：前回の会議で、「平日の違う曜日」「19時から21時」という原則が決まりました。

9月2日、12日、26日 10月17日、24日、26日を候補日とさせていただきました。

- ・ 区民委員それぞれの都合が悪い日を挙手してもらい、参加人数が多い日に決定。
- ・ 9月2日(金)、12日(月) 19:00~21:00
- ・ 10月17日(月)、24日(月) 19:00~21:00
- ・ 会場については、後日通知をします。

3. 区民委員3名の方のお話(文化、商店街、地場産業の3テーマ)

○：これからの司会進行役1名と、各テーマの記録係3名を決めたいと思います。立候補もしくは他薦をお願いします。

(立候補・他薦共になし)

◎：皆さんの中から、司会等を決めるという目的は、今後、来年2月の「中間のまとめ」に向けて、いろいろな方の進行方法等を見ていただきたいという事です。また、記録のとり方というものは、非常に個人差がありますので、皆さんがどのような形で、認識されているかがわかり、参考になるとと思います。いずれは、全員に役割を経験していただくつもりですので、気軽に引き受けていただければと思います。また、記録については、次回の分科会で皆さんに、配付させていただきます。公式な全体の記録は、学生補助員がとっています。

司会は、学識委員の指名で決定する。(本人了承)

記録は、各1名ずつ、計3名立候補し決定する。

●：Aさん【文化について】

● : 私は、青年劇場という劇団で、約100名の団員を率いて、東京を中心に全国で公演活動をしています。私が、「文化とは何か」という事を、もう少し考えた方が良いのではないかと思った経過から、お話したいと思います。

皆さんの認識の中で、「文化とは何か」と考えた時に、一般論としては、人の生きている営みの全て、という事で一致すると思います。そして芸術という範疇でくれば、文化、芸術的なものは、人間の経済活動の発展の余剰という形から生まれたもの、つまり、工業生産が発達することによって、必然性ができ、そこから発明等が生まれた。また、情報通信が発達すれば、全世界の事に思いが至り、哲学的な考えが深まり、精神的な活動が豊かになっていくという事があります。最近になって、文化が逆の視点で注目されるようになってきました。経済が右肩上がりの時は、経済の力が文化を発展させると考えられてきたし、その事に力を入れていけばよかったです。逆に右肩下がりになった時に、不都合な点がいろいろと出てきました。

一番わかりやすいのは、地方都市の問題です。地方都市というのは、戦後、企業や工場の誘致により、町を活性化してきた所です。しかし、地域産業の空洞化等で崩壊し、人間関係も崩れ、青少年達は都会に流出してしまい、地方都市に人がいなくなってしまった。地方都市の中心商店街は、シャッター街になってしまって、人がいないという状態です。コミュニケーションもなくなり、その街に住んでいる誇りもなくなっているといった事が、指摘されています。それをどうしたらいいのか、といった時に、文化という事が、全国的に注目されています。今まで文化を語る時は、「教育→文化」と語られてきましたが、そういう視点だけではいけない。街づくりや、人が住み合う、コミュニケーションができるまちづくり、といったような、ランドデザインの文化的視点で、逆に文化が経済に対して働きかけることはないのか、という研究が最近進んでいます。本日配布された参考資料の記事も、そのようなことを述べているのではないのでしょうか。イタリア諸都市の実践を踏まえて、各都市がどう町を特徴付けていくかが、語られる事が多くなったという内容です。区民会議の中で文化というものを考えていく時に、文化行政について求められている事といった話になってしまうが、そういう狭い範疇ではいけないという事を、問題意識として持っています。今までの日本の文化行政は、文化環境の確保、文化施設、文化財の保護、町並みの保全等、ソフトでは文化活動の補助、芸術活動支援といったものが行われてきました。その時の文化行政の特徴として、基本的に営利を目的とした民間の活動は除外する、独自の競争原理が働いているので、行政は不介入であるという原則がありました。基本的に、民間でできる事は民間で、という考え方でした。例えば、戦後新宿では、民間の文化芸術活動が大変盛んだった。今までは、民間で足りないところを、行政がどのように補うのか、といった意識だったように思われる。しかし、それだけでは足りない。今、新宿の文化の危機について語る時に、歌舞伎町の実態が刹那的なものに走っていないか、治安の問題等がないか、コミュニケーションが不足していないか、等が指摘され

ている事を考えると、民間の営利で行っている部分も含めて、そのことを問題にする必要があるのではないかと考えます。新宿というのは、非常に多様な文化活動が行われている街です。地方都市では、文化芸術活動がなくなり、人が住まなくなってきた事が問題になっていますが、新宿については、これほど集客力に優れた街はなく、そういう意味では、活性化している。生き生きとした人の波があります。新宿の文化資源は何でしょうか。非常に多彩で多様な文化が、共生しているということを感じます。多民族、歴史的な文化遺産もあり、現代的な若者文化もあり、熟成した文化芸術も栄えるといった事が、魅力だと思われまます。そこからスタートして、文化が共存していくためには、民間の経済活動にまかせていては、成立できない。どのように共生させるかが、文化の問題を考える上で、ひとつのキーワードではないでしょうか。さらに加えて、街の安全について、規制や制約ではなく、どうしたら育成によって乗り越えることができるか。文化芸術活動が持っているコミュニケーション能力に、着目する必要があるのではないか。人と人とを結び付けているものは、経済活動だけではない。経済活動だけで人との関係を作ると、それは非常に冷たい関係になり、大規模店舗といったものに人が集中してしまうが、コミュニケーションが生まれてくると、近所の商店の商品を買うという形になっていく訳で、人と人の関係をどう作るかという視点で、この文化という問題も、もう一度考えることができないか。演劇を例にとると、新宿では、プロからアマまで非常に幅広い活動が行われ、様々な団体が活動しています。そういう文化資源を含めて、新宿のコミュニケーション活動を作ることには生かすことができないでしょうか。力を生かしきるような組織ができないかということです。以上です。何かの問題提起になればと思い、お話ししました。

司会：どうもありがとうございました。多様で多彩な文化が共生している街、という事でした。確かにそのとおりだと思います。皆さんいろいろとお感じになったと思いますが、まずは全員にお話ししていただいて、その後、それぞれ発言していただきたいと思います。

●：Bさん【商店街について】

私は、末広亭を中心として、200 店舗余が加盟している末広通り商店街で、居酒屋を経営しております。その他に 10 店舗程飲食店を経営しております。また、西新宿 1 丁目商店街理事、歌舞伎町商店街、新宿大通商店街、新宿御苑大通りに加盟しており、末広通り商店街の会長を務めています。隣の要通り商店街は、かつては新宿の要であるという意味の、活気のある商店街でしたが、昭和 36 年の売春禁止法で衰退してしまいました。末広通りも含めて、さびれた商店街という記事を書かれた事もあり、5 年前に私が商店街会長に就任した当時、この商店街をどうやって活性化させようかと考えました。ひとつは、「ジャズフェスティバル in ハレクラニ」と銘打ったイベントを催しています。「ハレクラニ」とは、「天国に一番近いところ」という意味で、将来そんな素敵な商店街にしたいと思っています。毎年 11 月頃に開催しており、昨年で 3

回目でした。会場は、夜から営業する飲食店等を、空いている昼間に借りる事しました。会場には、2日間で延べ600人が来場し、1枚2000円の入場券で、「ピットイン」等有名店も含めて、約30軒程の、どの会場にも入ることができます。予想外の反響があり、他の商店街からもやりたいとの声があるので、将来は新宿全体に広げていきたいと思えます。

私は、地方から出てきて、30年間歌舞伎町で飲食店を営業しています。いろいろな客が来ますが、一度もトラブルにあった事はありません。東京の人は、よく歌舞伎町は怖いと言いますが、地方から出てきた人間にとって、こんなに安心・安全な街はありません。97~98%は、真面目な店で、残りの2~3%が不法な店だと思えます。意外に安心、安全な街だというPRをしていきたい。また、7月30日の土曜日13時から21時30分まで、500名の参加のもとエイサー祭りが行われました。大通り商店街→東口→アルタ→歌舞伎町といったルートが会場になりました。人出も多く非常に華やかで、元気のあるお祭りでした。新宿は多様で、日々エキサイティング、こんなに面白い街はありません。地元の方は、土地を貸し、自分で商売をしている人が少なく、地方出身者が、経営しているケースが多い。ある人に、新宿は地方出身者のエネルギーで発展してきた街、と言われたこともあります。地元の間以外でも、排他的にならず受入れてもらえる、非常に居心地の良い街です。現在の住まいも大変環境が良く、終の住家にしたいと思っております。

分科会には、他の商店街のメンバーがいますので、また話を聞く機会があると思えますが、他の商店街でも、現状に満足せず、常に活性化に向けて理事長を始め、幹部は努力をしています。

他にも歌舞伎町に防犯カメラ設置したら、非常に犯罪が減りました。ただ歌舞伎町2丁目はホテル街なのですが、防犯カメラを設置したことで、客が減って最近数軒つぶれてしまったといった話を聞きました。以上です。

司会：ありがとうございます。怖い街という印象がある歌舞伎町が、安心、安全であるという事や、ジャズフェスティバルが非常に成果を挙げているという話等、大変参考になりました。

●：Cさん【地場産業について】

(パワーポイントを使っての説明)

私は、染色の工房を営んでおります。東京手描友禅といって、着物に絵付けをする仕事です。今日はわかりやすくするために、パワーポイントを使って説明させていただきます。手描友禅というのは、小紋のように型紙を使わず、絵を描くように着物に直接筆で描いていきます。手描きという事で、京友禅や加賀友禅と同じ仕事です。「神田川における水もとの再現」「染めの街しんじゅく」とあるように、文化行政として約30年間新宿区と共に、文化の一翼を担うという立場からやってきました。本日は地場産業という位置付けになってから、現在までの30年間について、お話ししたいと思います。

《新宿区の地場産業について》

現在、染色業と印刷業が位置付けられています。染色業は当初「新宿区染色関係団体」として、事業協同組合単位で活動していました。この事業協同組合「東京都工芸染色協同組合」は東京手描友禅、「東京都染色工業協同組合」が東京染小紋の組合です。この二つが、国並びに都の伝統工芸品に指定されていることから、「新宿区染色協議会」として、事業所単位の加入となりました。そこで、和装染色加工関連事業所の協議会という事になりました。

印刷業については、「新宿区印刷・製本関連団体協議会」という事で、製本の方も含めた事業所の集まりです。本日配付したパンフレット『新宿区の染色業』は、新宿区の染色業を紹介するために作ったもので、この版からは、文化行政の観光という面から英語解説も入っています。

《染色業の地場産業としての成り立ち》

関東大震災以後、下町の隅田川流域の染色業者が、清流を求めて神田川、妙正寺川に移転し、神田、飯田橋、高田馬場に点在するようになりました。

その後、通産省（当時）による「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」の制定に伴い、「江戸小紋」「江戸手描友禅」の名称が「東京染小紋」「東京手描友禅」という名称に変わりました。これは、今は江戸ではないという理由で、東京という名称に変えさせられたという経緯があります。

地場産業とは、「ある一定の地域に多数の企業が集積し、存立基盤を地域に多く依存し、地域に密接に結びついている産業」と、定義づけられています。

地場産業においては、普通「雇用の増加・地域経済の活性化・租税収入の確保」ということがあります。染色業については、指定当時からこの役割は、全く果たしておりません。当時から、この部分については、地場産業という位置付けは無理だという話が出ておりました。しかし、伝統工芸として「地域文化の育成・学校教育への貢献・観光資源的価値」という役割は、十分満たしているということです。

《染色業の立地状況》地図を示しながら説明

《染色業のあゆみ・新宿区との係わり》

1978年第1回「新宿区染色文化展」は、区役所1階ロビーで行われました。その後、1980年から1998年まで、新宿文化センター、伊勢丹新宿店本館、小田急百貨店グランドギャラリーで行われました。ここで注目していただきたいのですが、第1回を区役所1階ロビーで行った意味合いです。当時、風俗産業が問題になり、風営法が制定され、区として何か文化的な催しはないかという事で、開催されました。同じように、印刷業の「プリンティングフェア」が、サブナードで開催されました。これ以降「染色文化展」と「プリンティングフェア」は、毎年行われる事になりました。第2回は、文化センターの落成記念という事で行われました。染色文化展は第20回まで、プリンティングフェアは、第15回まで毎年行われ、その後、隔年開催となりました。

内藤新宿300年に「染色文化展」はファッションショーを行い「プリンティングフェア」も記念展を行い終了しました。

《染色業のあゆみ・新宿区との係わり その2》

その後、地域活性化事業として、地場産業の位置付けに引き戻されました。我々事業者は、高齢者化が進み、かなり大変だったのですが、活性化事業として東京都と新宿区の支援を受け、2002年に新宿NSビルで「新宿区地場産業展・印刷と染色の祭典」が華々しく行われました。2004年には、新宿区立産業会館（BIZ新宿）で行いました。BIZ新宿については、かなりの思いがあったのですが、我々が考えていた産業会館と全く違ったものになってしまいました。私たちとしては、大変残念な思いをした部分です。

《産業を取り巻く環境》

- ・生活環境の変化に伴う需要の減少、低迷（着物離れ）
- ・増加する事業所の転廃業（高齢化と輸入品対策の遅れ）
大規模事業所が、海外に発注している。
- ・染小紋の事業所数（1976年）39→（1995年）15
- ・手描友禅の事業所（1976年）199→（1995年）97と、激減している。
これには、事業者の高齢化が大きく影響している。
- ・小規模事業所が多いので、土地が高い新宿から郊外へ移転してしまう。
- ・業種内格差の増幅（薄利多売か逸品製作）
- ・専業事業者（土地が高いため）の減少と兼業事業者の増加（不動産経営他）
- ・従事者の高齢化と協業組合等のサロン化（目的が経済活動から福利厚生に）
- ・後継者育成の立ち遅れ（消費地としての甘え）
- ・専門学校教育の落とし穴（作家意識と職人氣質）
- ・作家志望者の増加と職人志望者の減少（生業感の欠如・プロ意識の欠如）
- ・徒弟制度の弊害、一般社会との格差（労働時間等・賃金）

《新宿区内の事業所の推移》 グラフを見ながら

（注）1976年当初、手描友禅、染小紋については区による実態調査が行われていたのですが、「その他の業種」については、当初実態調査が行われていなかったため、実数より少なくなっています。その後は、横ばいですが、染小紋は多人数の工房を維持するのが難しく、極端に減少し現在区内5軒しかありません。反面、その他の業種や手描友禅については減少しながらも、なんとかバランスを保っている現状です。

《後継者の育成と活動》

- ・「新宿区地場染色産業後継者の会」昭和63年発足
新宿区地場産業振興小野基金の活用
研究作品等の展示発表会（東京ガスショールーム・パークタワーホール他）
- ・神田川における「水もと」の再現（パンフレットの表紙になっている）

- ・京都、有松鳴海、足利、桐生等の産地研修と交流
- ・異業種間の技術情報の提供と連携
各地方の伝統工芸との結びつき
- ・次世代後継者の確保が課題（30代未満の後継者は皆無）

《補助・育成事業のあり方》

- ・基本理念（団体事業）
共通の目的を抱いて手を携えて遂行する。（合議制）
事業の波及・相乗効果と継続・必要性の確認。
事業者間に利益・不利益の格差を生じない。（公平性）
特定の事業者には運営・負担を依存しない。（協調性）
通常業務上の営利目的な収益事業の便乗を回避する。
事業計画・経過・実績の報告に関する情報の提示・共有
主催・共催・協賛・協力の認識と義務・権利の均衡
受益者負担の原則と周知理解の徹底（透明性）
関係機関との相互理解・調整、情報の相互連絡・交換
事業の管理・運営体制の確立（サポート・チェック e t c）
- ・基本理念が大分崩れてきている。高齢化が進んできているため。
国、都では異業種の複数の工芸品で、何か達成しようと方向転換を図っている。
事業者が全国的に高齢化しているので、今後、補助育成のあり方について、問い直される時期にきている。

《地場産業へのかかわりとこだわり》

- ・築き上げてきたものを伝え育む（「のれん」を守る）
以前は、京都の下請け的存在だった。江戸友禅は、芸者さんの衣装として発展してきたので、いったん東京で染めたものを京都に運び、京染めとして入ってくるという形だった。何とかして、東京のブランドを立上げたいと思ってやってきた。
- ・きこえは好いが、きつい仕事で、食えない生業（染色産業の3K）
- ・職人へのこだわり「名を残すより労を残す努力」（研鑽）
- ・絶対的地位と付加価値の確立（顧客との信頼・連帯感）
- ・恵まれた生活・作業環境、周辺地域社会との融和・共存
落合第一地域センターで、毎年夏に染色教室を行っている。

《将来展望》

- ・伝統的工芸品産地としての品質の維持
後継者が育っていないために、困難になっている。
- ・増える高齢者従事者へのサポート対策
- ・問われる後継者層の技術レベル低下
- ・産業としての限界と伝統文化としての継承

印刷業とともに、現在大きな曲がり角にきている。

- ・ 守る伝統から育む伝統へ（情報の公開）
- ・ 指定産地・産業の統廃合を念頭に将来設計（国内での統廃合）
- ・ 差別化と共生（競争力と自立歩行）
- ・ 勝ち組・負け組の構図を回避
- ・ 行政機関との係わり方（自助努力・自浄作用）

補助金の有効な使い方を、考えていかなければならない。

司会：ありがとうございました。日本の伝統文化の中で象徴的なお話だったと思います。

4. 意見交換

司会：3つのテーマの中で、どうぞご自由に意見、質問をお願いします。

- ：文化と地場産業について質問します。文化に企業活動も含むべきという意見に、賛同しました。文化が多様化しているがゆえに、世代別に大きく異なる文化を通じたコミュニケーションが難しいと思うのですが、どのようにやっていくべきなのか意見を伺いたい。

また染色について、次世代の後継者確保が課題ということだが、学校で体験学習等を行った事があるのか、聞きたい。

- ：（Aさん）私も非常に難しい問題だと思っています。私達は、経済原理に基づいて活動してきたので、横のつながりはなかなか作れなかった。そういう意味では、区民会議の場で、皆さんのいろいろな意見を聞く事で、文化的交流ができると思っています。異業種とのつながりから、何か生まれなかと考えています。

- ：（Cさん）現在、組合では年間5～10校で、小・中学生を対象としたミニ教室を開いています。しかし児童でもカルチャー的感覚で臨む方が多く、なかなか育成までにはつながらない。京都のように職業訓練校が、東京都でもあれば協力できるのだが。落合地区のように、地域で予算を組んでいただき染色教室ができるのは、稀な例だと思います。

- ：文化について質問します。街の安全は、文化芸術の持つコミュニケーション力に、着目する必要があるという話に共感しました。実際問題としては、チケットセールス等、間口を広げる努力をしているのでしょうか？好きで演劇をやっているといったスタンスでは、生活を成り立たせるのが困難ではないでしょうか？

- ：（Aさん）演劇でいえば、青少年のための演劇公演が、非常に盛んに行われています。また、新宿文化センターと一緒に、区内の青少年を対象に演劇ワークショップを行いました。新宿区内で劇団協議会を作り、対応できるといろいろ面白い事ができると思うが、区側が特定の団体を支援できないという事で、話が進まない現状です。文学座では、慶応医学部の学生の研修で、患者を演じ、医者としてのコミュニケーションの

とりかたを練習させる等、さまざまな取り組み（アウトリーチ）を行っています。

- ：新宿区に対して、何か協力して欲しい事等、要望がありますか？
- （Aさん）：新宿には、非常に優秀な人材が集まってきているのに、それが新宿の資源・誇りにならないのはなぜか。新宿がもっと力を入れて育成すればよいのかとも思う。例えば、早稲田大学は、非常に多くの演劇人を出している。しかし、早稲田大学が新宿区にあることが、意外に知られていない。国立劇場の養成所が、淀橋三小の跡地にできた事で、初めて育成と作り手が一致してきた。区の公共施設が、廃校跡地を地域のシンボリックに生かして欲しいと思っている。コミュニケーションを持てる空間として利用するため、劇場等を作り、自由に住民が出入りできるようになると良いと思う。
- （Cさん）：平成14年度東京伝統工芸品業種別実態調査によると、約40種の伝統工芸の年間売上げは、平均500万円です。その位しか仕事がない中では、若い人達は苦勞してまでやりたがらない。特に、舞台衣装等は、休みなく作業しなければ、間に合わない。今の若い人は、「仕事がない時が休み」という感覚が、分からない。行政には個人事業税を減免する等、作業環境を整えていただきたい。協議会や公の会議等に出席する事は、仕事の手を休めることで、事業者の負担になってしまう。このような現状を理解して欲しい。
- （Aさん）：ニューヨークでは、ブロードウェイがストライキを起こした時に、周辺の飲食店が軒並みつぶれかかった経験から、売れない劇団に、倉庫等の練習場所を\$1で貸した。同じように、東京でも空き部屋を利用できないか。淀橋三小もその事例だが、家賃負担が大変大きい。アマチュアや売れない劇団に対して、使われていないビルや公共施設を有効活用できないでしょうか。
- ：3テーマに共通した事ですが、感想として、今までのような努力だけでは、成りたたなくなっていると、感じました。今、非常に盛んに活動している、歌舞伎町商店街のお話がありましたが、新宿の商店街全体は、元気のないイメージがあります。イベント中心にやっても、線香花火で終わってなかなか元気が出ない。行政に頼るだけではなく、商店街でも考えているのだが、なかなかうまくいかない。どう打開していくかが課題だと思います。商店街の中だけでなく、流通全体や人々の暮らし向き等を考えていく必要がある。早稲田大学が墨田区のものづくり事業に、取り組んでいると聞いた事があるのですが、新宿でも、地域で考えていかななくてははいけない。業界の事だけ考えるのではなく、地域全体を見る事が重要です。

司会：オーケストラに所属されている方がいるので、少し話を伺いたい。

- ：私は、オーケストラの営業活動をしています。まだ皆さんに周知されていなく感じていますし、私自身、新宿にこのような素晴らしい伝統工芸がある事を知りませんでした。この区民会議で皆さんに、知らせていくシステムは何かないかなと考えてい

ます。区民会議を通じて、新宿区に残していきたいと思うものを、伝えていく、ネットワークづくりが、できればよいと思う。

司会：では、ここで先生方と事務局に、司会進行を交替します。(拍手)

5. まとめ

◎：先程の、墨田区の事例について補足します。実は私が携わっているのですが、早稲田大学が、補助金や助成金を利用して、墨田区の地場産業・ものづくりと、子供達をつなげる活動をしています。この活動は父兄がまた参加させたい。子供もまたやりたいという事で、評価されています。今後も情報提供していきたいと思います。

◎：私は本来、産業活動や文化とは、行政提起とは関係がないと思っています。しかし、いろいろ歴史的経緯や結びつきがあるので、どこかで切らなければならない。切って、どういう事をやろうかとしていく。その意味で、この会議の場は、どういう知恵を出せば良くなっていくのかを、考える場所です。特に産業を抱えており、産業をどうするかという事は、食べていける構造を作らなければいけない、という単純な話です。文化も同じで、食べていける構造を作るということです。この場では、評論家になるのではなく、皆さんに現状を知らせる場です。皆さんがそれぞれ活動していることや、抱えている問題に対して、我々が第5分科会の中で、どういう積極的な事を言えるのかという事です。自分のいる場所から、他の関係も見えてきた時に、どう変えていくのか皆さんと考えていきたい。先程、人間と人間の関係を作るという話がありましたが、大変重要な視点だと思います。そして、演劇の方がなぜそう考えたのか、もっと掘り下げていく必要があると思います。私は、商業者が何故生きる力を失っていったのか。それは、コミュニケーション能力を失ったからだと思います。これだけ自販機に任せる文化があるのは、日本だけです。自分で、お客様に大切な物を売るという行為を通じて、お客様を作るという事をやめてしまった。しかし、実際に自販機を置いていると売れるという矛盾がある。それでいいのか、それともそれを変えていくのか、決断しなければならない。東京は多様なものがありすぎて、関係が見えなくなっています。例えば、文化都市と言われる金沢でさえ、映画館が無くなりそうになってしまった。そこで、民間の方が危機感を持って、頑張って映画館を守ろうとしている。様々なイベントで盛り上げ、映画を観る人を生んでいこうとしている。東京は、たくさんありすぎて、逆に淘汰される時代になっている。しかし、よく見てみると、地方と同じ要素もたくさん持っている。今をどうするのかを、考えていかななくてはならない。歌舞伎町は頑張ったから、今のようになくなった、と言われていました。頑張った結果いろいろな人が集まるようになった、という事です。2週間に1度、会議をし、いろいろな事を話し合ってきました。そこで、話し合った事は、どうやって食べていける構造を作るかという事です。新宿を多方面の視点で見ていきましょう。そのためには、皆さんにどんどん話をして欲しい。今日の話をきいて、劇団や工房に見学に行きたいという人も出てくるかもしれません。

迷惑にならない範囲で、お願いするかもしれません。

次回は自分が話しをしたいという方はいらっしゃいますか。または、あの人の話が聞きたいとか、グループで話したい等、ご意見をお願いします。

●：私は、次回話したい事があります。オペラシティの話と、地方との連携の話をして下さい。

●：私は、自分の地域を含めた、商店街の話をしてします。

◎：それでは、次回はお二人に、各15分話していただきます。これで計5名の話を行った事になります。その後、以前作った4つのグループを組み替えて議論をしましょう。

●：地域に図書館を作る運動を続けてきましたので、その話を少しさせて下さい。

◎：では、3名に話していただき、その後グループで議論をしましょう。こういう事を知りたい、調べたい等、具体的に次につながる事を行っていきましょう。

以上